F．内分泌系（甲状腺以外）

2314　6－ヨウドメチル－19－ノルコレステロール（^{123}I）による副腎シンチグラム

舘野之男、宍戸文男、福士清、入江俊章（放医研）　松浦啓一、鴨井逸馬（九大　放）　有水昇、堀田とし子（千大　放）　橋本省三、高木八重子（慶大　放）　井戸達雄（東北大　サイクロ）　小嶋正治、前田稔（九大　薬学）　小川弘、伊藤隆之（第一ラジオアイソトープ）

従来^{131}I標識で用いられていた6－ヨウドメチル－19－ノルコレステロールに^{123}I標識を行ない、その臨床的有用性の評価を行った。

この標識化合物については昭和53年度の本学会において動物実験の結果を発表し、昭和54年度の本学会に4例の臨床例の報告を行なったが、その後数施設の共同研究に進展し、計40例の臨床例が集積された。その結果、^{123}Iの半減期13.3時間というのが従来副腎スキャンに使われていた投与後1週間ないし10日での検査という条件に合わないのではないかとの危惧は解消し、投与後1～3日で良好なイメージが得られることがわかった。この結果数日間隔での反復検査も可能となった。以上の好結果が得られた主な理由は、^{123}Iのガンマ線がシンチカメラに適したエネルギを持つこと、および被曝線量が大巾に軽減されて大量投与が可能になり統計精度の良い画が得られたことにある。

2315　Adrenal Disease 48例のScintigraphyによる検討

高橋貞一郎、久保田昌宏、大久保　整、津田　隆俊　森田　和夫（札医大　放）

著者等は1976年以後 Adrenal Scintigraphy を施行し48例のAdrenal Disease（Cushing Disease 2, Cushing Syndrome 8, Primary Aldosteronism 15, Pheochromocytoma 10, Addison Disease 2, Congenital Adrenal Hyperplasia 2, Adrenal carcinoma 2, others 7）を経験した。使用薬剤は ^{131}I Adosterol 23, ^{75}Se Scintadren 25例であった。此等のscintigraphyにつき臨床検査所見とも併せ検討を行ったので報告する。

F

2316　副腎スキャンの診断能の再評価　－他の放射線診断法との比較－

佐々木常雄、仙田宏平、石口恒男、松原一仁、小林英敏、改井　修、児玉行弘、岡江俊治（名大、放）

副腎疾患の診断にCT撮影が応用されるに及び、副腎スキャンの診断能について再度評価を試みることは意義のあることと考える。

対象は手術により確認されたクッシング症候群（CS）7例、原発性アルドステロン症（PA）9例、かっ色細胞腫（PH）7例であり、検査方法としては副腎スキャンのほか、副腎静脈撮影、大動脈撮影、CT撮影である。

CSの7例では、副腎スキャン6／7、副腎静脈撮影6／7、CT撮影3／7の正診率であった。

PAの9例では、副腎スキャン9／9、副腎静脈撮影7／9（うち造影失敗2例）、CT撮影1／7の正診率であった。

PHの7例では、副腎スキャン0／4、大動脈造影7／7、CT撮影4／4の正診率であった。

上述のように、副腎スキャンはCS、PAの診断には有用であり、評価は依然として高いが、PHに対しては無力である。従って、これに上述の放射線診断法を併用すれば副腎疾患の診断能は向上する。

2317　Tl-201およびI-123を用いた副甲状腺サブトラクションイメージングとその臨床的評価

福地　稔，立花敬三，木谷仁昭，尾上公一，前田善裕，浜田一男，木戸　亮，永井清保（兵庫医大，RI）

副甲状腺のimagingは，種々の点で問題が多く，日常臨床上簡便な方法はいまだ確立されていない。最近，福永らにより副甲状腺腫にTl-201が摂取されることが報告されたのを契機に，種々の試みがなされつつある。われわれも，Tl-201とI-123を用いた副甲状腺腫のcomputer-assisted subtraction image を検討し，その臨床応用を試みたのでその成績につき報告する。

方法は，I-123 200μCi投与，6時間後に頚部のimagingを行い，30,000 countを64×64のframe mode でcomputerに記録し，引き続きTl-201を静注，頚部のimagingを50,000 countまで同一frame mode でcomputerに記録し，subtraction programでimageを得た。対象には手術予定の6名をあてたが，その内訳は原発性副甲状腺機能亢進症4例，続発性副甲状腺機能亢進症2例であった。

その結果，false negativeは1例で，他の5例では手術所見と一致したimageがえられた。ところが甲状腺腺腫を合併した1例では，その部位も同様に陽性像であった。

Presented by Medical*Online